

Vol.70 2020.12

Newsletter

生活支援生へのインタビュー~大学生活と将来の働き方

今年は新型コロナウィルスの感染拡大により、さぽうと21の生活支援生の学校生活や就職活動にも、大きな影響が生じています。返済不要の生活支援金支給に加えて、進路支援の一環として全6回の「就活事前研修」を実施しています。研修に参加中の大学生が、最近の様子を聞かせてくれました。

フィン・タン・ヒーさん (経済学部1年)、黒川 浩 さん (工学部2年) ともに インドシナ難民二世、ルー ツはベトナム。神奈川在住の幼なじみ。高校入学 時から「生活支援プログラム」の支援生です。



一 感染拡大による大学生活への影響は?

- (黒川) 就活の情報が手に入らず、心配です。これまでは大学で企業説明会のような機会があったんですが。授業はほとんどオンライン。自分の部屋で受けていますが、寝過ごしてしまったことも・・・
- (フィン) 入学式も新歓イベントもなく、大学生になった実感がないです。バスケのサークルに入りましたが、1年生は必修科目が多く、忙しくてあまり参加できていません。

パソコンが家にない学生もいるので、皆、試行錯誤でリモート授業に取り組んでいます。対面の方が学んでいる実感がありますね。自宅だと誘惑があるし、対面の方が理解しやすい。

一 特に面白い授業は?

- (黒川) 製図の2次元 CAD の授業です。配布された見本をもとに、パソコン上で描いて出す。後期になるとそれが3D(立体図)になります。機械工学科では車やバイク、飛行機などを設計します。
- (フィン) モノの流通など、まだ経済の基礎的な仕組みしか 理解できていません。でも、最初は固いと思ってい たけど楽しいです。社会の仕組みの見方や、お金の 流れがわかってくるようになりました。第二外国語 の中国語も新鮮。

一この学部を選んだきっかけは?

- (黒川) 自分の関心は広くて浅い。飽きっぽいんです。続けられることは何かなと考えたら、小学校からプラモデルを作り続けていました。設計の構造に関心が強かったから。完成品を見たときが嬉しい。図面を見ると興奮します。すごくやりがいがある。
- (フィン) 高校時代、いろいろなバックグラウンドをもつ支援

生と知り合って、新しい知識を得ることができました。特に東南アジアを学びたいです。さぽうと21のおかげで興味を持てたので。去年ベトナムに一時帰国したことも影響しています。急成長の様子を目の当たりにして、さらに伸びしろがあると感じました。今後ベトナムの人々が、どんな産業を新たに産み出して、その技術を世の中に提供できるのか、知りたいです。

一 さぽうと21のプログラムで印象深かったことは?

- (**黒川**) 研修会などに来ると意識が高まります。周りは高卒が多く、ロールモデルがない。ここに来るとがんばらなきゃと思う。でも、家に帰ると元に戻っちゃう。
- (フィン) 僕もそうです。さぽうと21で出会った先輩たちは何かに打ち込んでいる。皆、常に目標に向かって頑張っていた。今もそのような先輩を見てモチベーションを保っています。

一 進路は?どんな働き方をしたい?

- (黒川) 製造です。できればバイクか車の設計をしたいです。 年下の子たちに誇れるようになりたい。周りは高卒で 働いている人が多いので、何を勉強してどこに入った か、自信を持って言えるようになりたい。
- (フィン) 貿易かな?漠然とだけど、AI に職を奪われないよう な働き方をしたいし、やりたいことを仕事にしたい。 先輩方がはっきりと言ってくれたように、自分も年下の子に言えるようにしたいです。

一 今、一番したいことは?

- (**黒川**) 筋トレです! 8月中旬からやっています。目標はベンチプレス65kg。
- (フィン) 大学で友達をつくること。中高の友達としか会ってないんです。大学は4年間しかないし、今しかないから。

2021年度「生活支援プログラム」支援生募集中

■ 募集期間

2020年12月10日(木)~2021年1月13日(水)必着

詳しくはホームページをご覧ください。(https://support21.or.jp)

■支援対象

主に日本の大学、専門学校に通学中で(入学予定含む)、以下のいずれかに該当する方

- a) 難民とその子など
- b) 日系定住者または中国帰国者の子など
- c) a、bと同じような事情がある外国籍の学生



外国にルーツのある学生のための「就活事前研修」

主に大学1~3年生を対象に、就職活動に備えて会社の仕組みを理解し、視野を広げることを目的に開催。社会人の基本スキル、会社の構造、エントリーシートの書き方、面接試験の練習など、全6回のシリーズで、グループワークも交えて「考えるセミナー」を実施しています。

研修に参加して

- ■就職まで少し時間があるので、法律や会計に関わる資格
 - にもチャレンジして みたいと思った。
- ●自分にとって働くと いう事の意味を ちんと考えること ら就活を始めること で、後悔のないと 択をできるようにし たい。



地方の学生もオンラインで参加

講師の声

新型コロナウイルス感染症の影響で各 企業の業績が低迷し、前年度よりも新卒 採用を控える企業が多い中、学生さんも 今まで以上に緊張感を持ってセミナーに 出席されている感があります。

事務局の皆様のご尽力もあり、今回は オンライン型と対面型を混在したセミナーが実現できましたが、遠方の学生さんへも講義を行うことが出来て、オンライン型セミナーの有効性と可能性を実感しました。



予告

オシライシ研究報告会



例年開催している「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」支援生報告会。今年度はオンライン開催という初の試みで 実施します。(2021年2月27日)

テーマは「SDGs の達成のために、いま私たちが取り組んでいること」。このような時代だからこそ何ができるのか、 医療や環境、教育を専門に学ぶ支援生と共に考えます。ここでは、報告会に臨む、支援生の西山宝輝さんを紹介します。

正しゃま たか き 西山 宝輝さん (東京海洋大学 海洋資源環境学部 3年)

電車に10分乗れば湘南の海がある、そんな環境で育ちました。幼い頃、父に連れられて毎月のように地元の水族館を訪れ、様々な種類の魚や海洋哺乳類に魅了されて海が楽しい場所であると認識したことを覚えています。高校生の時には、同じ志を持った仲間たちからもっと大きな刺激を受けたいと思い、国内唯一の海洋に特化した国立大学を受験しました。

本学は様々な角度からアカデミックに「海」に向き合える充実した環境が整備されています。また、他大学ではみられない珍しいサークルもあり、私自身もウミガメの調査やウミガメに関わる諸問題

を発信する「うみがめ研究会」に所属しています。

来年度からは研究室に入り、大学院を含めた3年の間、海域を限定しながら、マイクロプラスチックの量や分布を調査し、大きなプラスチックとマイクロプラスチックの量や分布の相関についても調査する予定です。卒業後、身につけた専門性を生かして働ける海洋調査の企業に就職したり、水産や港湾に関わる公務員として働いたりすることが現時点での願望です。専門的な分野で経験を積んだ後、中学校や高校などの学校と海洋分野で活躍する研究者や技術者をつなぎ、日本の理数教育推進に貢献したいと考えています。サイエンスを魅力的に伝えられる大人と、サイエンスを楽しみながら受容できる子どもが増えるプログラムを構築します。



学習支援室、元気に活動継続中

~「新しい日常」の中で多くの方々に支えられながら~

2011年3月11日、あの大地震の翌日さえ休むことのなかった学習支援室が、2020年2月29日から少し長いお休みに入りました。しかし、9年前のあの震災の時、私たちは、学習支援室という場が、ただ単に「外国人が日本語を学ぶ場」ではなく、そこに参加する全ての方々にとって「安心と安全を感じられる場」であることを実感していました。ですから、たとえ教室の対面活動はお休みになっても、学習支援室としての活動は継続するのだという思いは強く、学習者の方々への電話での聞き取りを行ったり、今春卒業した小中高生へのお祝いメッセージをボランティアの方々と一緒に作成したりと、思いつく限りの活動を継続していました。

⁴月16日、今年高校に進学したS君のお母さんから 電話が入りました。

「うちの子、高校生になったのに、全然勉強しないで家でぼ~っと過ごしています。これじゃだめですよね。でも、私は何もできません。さぽうとで助けてもらえませんか!

翌4月17日、オンライン上の学習支援室がスタートしました。その日の参加者はS君とコーディネーターとの2人だけ。

これまで学習支援では一度も使ったことのない、ZOOMというWEB会議ツールを利用して、さぽうと21の学習支援室が「再起動」しました。この先どうなっていくのかも分からない、不安なスタートでしたが、大勢のボランティアの方々が自主的に ZOOM 勉強会を開くなどして、続々活動に復帰してくださり、心配していた外国人参加者も、予想以上にスムースにZOOM IN。「さぽうと21・オンライン個別学習支援」は、あっという間に「当たり前の日常」の風景となりました。

● オンラインになったことで、移動時間を心配する必要がなくなり、平日夕方の学習支援も可能となりまし

た。子どもたちの学校が再開してからも、オンラインでの学習支援は継続実施しています。そして、オンラインになったことで、転居等で東京を離れたボランティアの方々も、活動に復帰。静岡、長野、宮城、そして、はるかロンドンからも、多くの方々が学習支援室の活動を支えてくださっています。

4月17日以来、平日も週末も一日も休むことなく活動は続き、10月末までに連続198日間、参加学習者のべ2,491名、ボランティアのべ2,094名。6月末には目黒、錦糸町の2教室の対面活動も再開し、さらに7月には千葉県行徳のモスクの近くに新しい教室をスタートさせました。オンライン型と教室(拠点)型の活動が同時進行する「新しい形」の学習支援室活動が元気に継続しています。「新しい日常」との共生を支えてくれているのは、学習支援室に参加する全ての方々です。形は変わっても、参加する方々の温かなお気持ちは変わることなく、「さぽうと21」らしい日常を紡いでくださっています。

※さぽうと21は、日本国際交流センター主催の「外国ルーツ青少年未来創造事業」採択7団体の一つとして、「「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業〜拠点型・アウトリーチ型・オンライン型学習支援を組み合わせて」を進めています。教室まで来ることのできない地域や環境にある子どもたちに対しても、ニーズがある限り、学習の場を提供していくことを目指しています。

同事業実施の中で現在大学生チームを特別に編成。 アウトリーチ型の学習支援、支援者向け研修などの検討を始めてくれています。また、住友商事の社会貢献事業「100 SEED」との連携もスタートし、運営基盤の強化や学習支援活動に、社員の方々が大きな力を貸してくださっています。



学業の合間を縫ってミーティングを重ねる「大学生チーム」に期待大!



対面教室初回の活動は「予防のためのチラシづくり」から

相談支援から見えてきたこと~今年を振り返って~

前身団体である「インドシナ難民を助ける会」(1979年設立) が相談事業を始めてから、34年が経ちます。今年は新型コロナ ウィルス感染症の拡大に伴い、相談の傾向も今までとは異なり、 生活の様々な面にその影響が及んでいることを実感しています。

日本に暮らす外国の方からは、衣食住に困っているとのお声、 失職による就職相談や、経済的支援を受けるための社会福祉サー ビスの利用手続きについて、子どもの学費の支払い、経営するお 店の売り上げ悪化や先行き不安等、さまざまなご相談が寄せられ ており、事態は深刻化しているようにも感じています。2020年 4月以降、100名を超える方々から寄せられたご相談のうち、感 染症関連は3割にものぼります。日本語が不自由な親に代わって、 福祉事務所での手続きはすべて行っていると話してくれた高校生 や、「アルバイトが減り、来年度分の学費が準備できない。けれど、 なんとか勉強は続けたいので、休学することを考えている。」と 相談してくれた当団体の生活支援生もいました。しかし、そんな 中でも、「コロナで働き方が変わって、時間ができたので日本語の 勉強をまた始めたいです!| と以前学習支援室に通っていた方か らお電話があったり、「家にいる時間が増えたので、オンライン学 習支援のボランティアをしてみたいです!」とお問い合わせくだ さる日本人の方が増えてきました。感染症の蔓延という大変な状 況ではありますが、これがきっかけとなって懐かしい方とつなが

ることができ、また、 新しい方とのご縁があ り、喜ばしい出来事も 続いています。

事態の収束までには まだ時間がかかるかと 思われますが、これか らもお一人お一人に寄 り添いながら相談支援 を進めてまいりたいと 思います。



外国人在留支援センターを訪問。 より適切な相談支援を行うため、他機関を訪ね、 勉強させていただくことがあります。



年末募金のお願い



社会福祉法人さぽうと21は今年で設立28年目を迎えました が、皆さまから寄せられるご支援に支えられて今なお変わらずに 活動を続けることができており、心より感謝申し上げます。

皆さまからいただく年会費やご寄付は、縁あって日本で暮らす こととなった外国ルーツの方々が自立した生活を送ることができ るよう、「自立支援事業」「学習支援室事業」「相談事業」を柱とする 包括的な支援活動に活用させていただいております。

来る年も、設立者である相馬雪香の精神「困ったときはおたが いさま」を大切に、事業に取り組んでまいります。皆さまの温か なお気持ちをどうぞよろしくお願い申し上げます。

当法人への年会費・ご寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。



Vol.70 2020.12

社会福祉法人 さぽうと2

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぽうと21は…

認定NPO法人難民を助ける会 (AAR Japan) を母体に、 その国内事業を受け継ぎ、社会福祉法人として1992年 に設立されました。

日本で生活する難民やその家族、定住外国人などの相談 に乗り、学業継続のための就学支援や学習支援など、自 立を後押しする活動を行っております。また、日本人の 学生には、pp奨学金を2017年度から実施しています。

私たちの活動を応援してくださる方を 求めています!

■会 員:法人会費50,000円/個人会費5,000円

■ご寄付:随時受付

■マンスリーサポーター: 随時受付

詳しくはこちら⇒

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金□座◆

振替口座:00180-7-25470 ゆうちょ銀行 加入者名:社会福祉法人 さぽうと21

通信欄に会費または寄付とご明記ください

目黒支店(普) 851872 三井住友銀行 名義:社会福祉法人 さぽうとにじゅういち

目黒支店(普) 1180279 みずほ銀行 名義: 社会福祉法人 さぽうとにじゅういち

目黒駅前支店(普) 1390060

三菱UFJ銀行 名 義:社会福祉法人 さぽうとにじゅういち

お問い合わせ

社会福祉法人 さぽうと21

住所:

T141-0021

東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階

FAX:

03-5449-1331

03-5449-1332

E-mail:

URL:

info@support21.or.jp http://www.support21.or.jp

